

厚く御礼申し上げます。

私は中国で医学部を卒業し、本学での就学のために先立って一年間日本語の勉強を行いながら、神戸大学で代謝内科学について勉強と研究を行っておりました。令和三年度四月から熊本大学大学院博士課程に入学し、代謝内科学講座で日々研究を行っております。

現在は、膵臓でのインスリン分泌へのマクロファージ増殖の影響を研究しております。近年、中国でも日本でも不健康な生活習慣により糖尿病・肥満の罹患率が増えています。そのため、糖尿病対策が重要な課題であり、糖尿病を専門に診療、研究を行う医師や研究者が必要と考えており、今後も糖尿病に関わる研究を引き続きたいと思っております。

今回の受賞を励みに、より良い研究者になりたいという目標を達成し、早く医療に貢献できるよう、学業・研究に集中して取り組みたいと考えております。今後とも、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程二年 Tungalag Saruli



この度、肥後医育  
振興会より外国人留  
学生奨学金を授与い  
ただきましたことに

厚く御礼申し上げます。私はモンゴルからの留学生で、母国では国立第一中央病院で血液内科医として勤務してきました。現在は、臨床病態解析学講座で大学院生として研究活動に励んでおり、造血器腫瘍の病態解明を通じて患者さんの治療成績向上につなげたいと頑張っております。

私の現在の研究テーマは、RNAヘリケースDDX41の異常が引き起こす翻訳障害の解明です。DDX41遺伝子の体細胞遺伝子変異および生殖細胞系列変異が、急性前骨髄球性白血病や骨髄異形成症候群をはじめとする骨髄性造血器腫瘍において、一定の割合で検出されます。しかしながら、これらの変異が意味するところはまだ必ずしも明確ではありません。所属する研究室では以前に、DDX41がリボソームRNAのプロセシングに関与し、リボソーム合成に対して促進的に機能することを明らかにしてきました。これを受け私は、次世代シーケンサーを用いた

翻訳解析により、DDX41を介した翻訳制御機構について研究に取り組んでいます。いつか良い研究成果を出せるよう努力を続けてまいります。

最後に改めて、研究室でご指導くださったっている臨床病態解析学講座の松井啓隆先生と研究室の皆さんに、心より御礼申し上げます。



熊本大学薬学教育部  
博士前期課程二年(創薬基盤分子設計学)

金 鑫



この度は、肥後医  
育振興会外国人留  
学生奨学金を賜りま  
して、心より感謝いた

します。  
自分は大学で応用化学を専攻し、二年前から熊本大学の創薬基盤分子設計学分野で研究してきました。研究テーマとしては、新規不斉pincer型NH<sub>2</sub>C配位子の開発と不斉触媒反応への考察であります。触媒は化学の中でもすごく重要な部分であり、化学反応のスピードを高めるとか、もともと起こらない反応を起こせるとかの役割ができません。  
一方、化学の中でもは、キラリティー



の概念がありますが、実際、多くの薬品のうち、一種のエナンチオマーだけが薬学活性を持ち、ほかのエナンチオマーは活性がない、あるいは毒性がある恐れもあります。ですので、不斉触媒的反応により、一種類のエナンチオマーを選択的得ることは薬学でもすごく重要です。現在の段階では、本研究に新しく開発したpincer型NH<sub>2</sub>C配位子を触媒とし不斉触媒反応に用いる場合、中程度のエナンチオ選択性が表れています。まだ研究の初期段階であります。今後の研究を通して、エナンチオ選択性を高めることと、幅広い不斉触媒反応に適用することが期待されます。

今回の受賞を励みに今後も努力していきたいと思います。最後に、ご推薦頂きました創薬基盤分子設計学分野の石塚忠男教授に心より感謝いたします。